

仮名垣魯文参考文献目録

鈴木 一 正

要旨 本目録は、幕末・明治期に活躍した戯作者・新聞記者の仮名垣魯文（一八二九〜一八九四）の参考文献目録である。収録期間は、明治八年（二八七五）から平成十八年（二〇〇六）までの一三三年間で、発行順に並べたものである。これまで仮名垣魯文の参考文献目録はいくつか作成されているが、網羅的なものはほとんどなかった。本目録では、先行の参考文献目録に未収載の文献を大幅に加えるとともに、現物を確認し、正確を期すことにした。また、先行目録が省略した巻号や副題を加え、単行本収録の情報も付加した。

凡 例

一、本目録は、幕末・明治期に活躍した戯作者・新聞記者の仮名垣魯文（一八二九～一八九四）の参考文献目録である。

一、本目録の構成は、「1 単行本」「2 新聞・雑誌・単行本等所収論文」から成る。

一、収録対象は、明治以降とし、それ以前のものゝは割愛した。収録期間は、明治八年（一八七五）から平成十八年（二〇〇六）までである。

一、排列は、発行年月日順に並べた。発行日が同じ場合は、誌（紙）名の五十音順とし、雑誌等で同誌同号に複数の論文掲載の場合は掲載順とした。

一、同月内は、単行本、雑誌・新聞の順とし、単行本は書名順、雑誌・新聞は誌（紙）名順に並べた。

一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題は、なるべく採用するようにしたが、所収書名の副題は省略した。なお、副題の表記は、記載のとおりとした。

一、雑誌等の巻号は、なるべく採用するよう努めた。

一、単行本は「』」、雑誌等は「┌」で示し、叢書名・特集名等、補足的事項は（へ）を用いた。また無署名の場合は、——で表示した。同じ著者の論文等を併記した場合は、／を用いた。その他、必要に応じて注記した。

一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に*印を付した。

一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。なお、所収書名は、↓「』」で示した。

一、原則として、戦前分は発行年月日まで記入し、戦後分は発行年月までとした。

1 単行本

- 興津 要 『転換期の文学―江戸から明治へ―』(早稲田大学出版部、昭35・11・10)
- 興津 要 『明治開化期文学の研究』(桜楓社、昭43・1・25) 昭48・10に新訂版
- 齋賀秀夫・飛田良文・梶原湜太郎 『牛店雑談 安愚楽鍋 用語索引』(国立国語研究所資料集9)(国立国語研究所、昭49・3)
- 興津 要 『最後の江戸戯作者たち』(有楽選書5)(実業之日本社、昭51・7・1)
- 平塚良宣 『仮名垣魯文』(平塚良宣、昭54・5・20)
- 興津 要 『新聞雑誌発生事情』(角川選書76)(角川書店、昭58・9・10)
- 斎藤 均編 『成田道中膝栗毛』を読む(ふるさと文庫)(論書房出版、平2・11・30)「魯文年譜」を付す
- 興津 要 『仮名垣魯文―文明開化の戯作者』(有隣新書46)(有隣堂、平5・6・20)
- 興津 要 『明治新聞事始め―「文明開化」のジャーナリズム』(大修館書店、平9・3・10)
- 高橋克彦 『完四郎広目手控』(集英社、平10・8・30)小説。平13・12に集英社文庫版
- 本田康雄 『新聞小説の誕生』(平凡社選書183)(平凡社、平10・11・20)

ニュースパーク編 『明治のメディア師たち―錦絵新聞の世界』(ニュースパーク、平13・10・5)

高橋克彦 『完四郎広目手控 天狗殺し』(集英社、平12・6・30)小説。平15・12に集英社文庫版

土屋礼子 『大衆紙の源流―明治期小新聞の研究―』(世界思想社、平14・12・10)

高橋克彦 『完四郎広目手控 いじん幽霊』(集英社、平15・12・20)小説

国学院大学明治初期文学研究会編 『明治初期文学資料集 仮名垣魯文1』(平成十七年度国学院大学「特色ある教育研究」研究成果報告書)(国学院大学文学部日本文学第八研究室、平18・3・20)「倭国字西洋文庫」「佐賀電信録」「鋸山玉石異訓」「義経蝦夷軍記」の翻刻、語注、解題。中村正明「仮名垣魯文著作目録稿―江戸之部」を付す

谷川恵一ほか 『仮名垣魯文百覧会 展示目録』(国文学研究資料館二〇〇六年度秋季特別展)(国文学研究資料館普及・連携活動事業部、平18・10・17)初版。3版まであり

谷川恵一ほか 『仮名垣魯文百覧会 展示目録』(国文学研究資料館普及・連携活動事業部、平18・10・17)初版。3版まであり

2 新聞・雑誌・単行本等所収論文

【明治期】

- 75
『仮名垣魯文仮名読新聞創刊の記事』(読売新聞) 明8・10・18)〔横浜の新聞社にては神奈

垣魯文先生が編輯して仮名読新聞といふものができ
て来月一日より隔日にうり出します…)

官許 仮名読新聞 隔日出版 一寸御披露申
上(「郵便報知新聞」明8・10・19)

76

〔かなよみ新聞売子と魯文の記事〕(「雑報」
〔東京曙新聞〕明9・3・29) (…稿八丈の半天を
着てかめのぞきの手拭ひを一寸吉原冠りにした意気
な男が人力車に打乗りかなよみしんぶんと赤く書い
たる小田原提灯をさげ…編輯される仮名垣先生は古
今珍らしい滑稽の隊長で…) ↓「神奈川県史」資料
編14、神奈川県、昭51・3

〔仮名垣魯文新聞縦覧所開設の記事〕(「読
売新聞」明9・6・22) (横浜の仮名がき魯文さん
が野毛坂上の四時皆宜園といふ植木屋の裏の方へ窟
蟻といふ風流な粋な家を拵らへ来月二日から諸新
聞縦覧所を開かれ…) ↓「神奈川県史」資料編14、
神奈川県、昭51・3

岡 文紀 〔諸新聞縦覧茶亭窟蟻開窟の前広告〕
〔「仮名読新聞」明9・6・26〕(明治九年七月九日
の日曜日を以て横浜野毛坂植木屋友吉が四時皆宜園
と号新花屋敷の山中評判高き隠れ杉「メーズ」の外
数武にて東南に向ひ斗絶たる懸崖へ新しく宮繕した
「窟蟻」といふ一服一銭の茶亭は五ぞんし仮名垣
魯文が老後を保養ふ別業で有ます…)

諸新聞縦覧茶亭開業ノ稟告(「雑話」)〔横浜

毎日新聞」明9・7・12) ↓「神奈川県史」資料編
14、神奈川県、昭51・3

肥塚 龍 窟蟻記(「雑話」) (同右) 絵入。 ↓「神奈
川県史」資料編14、神奈川県、昭51・3
匏庵老人 賀仮名垣魯文子窟蟻之成(「府下雑報」
〔郵便報知新聞〕明9・7・14)

〔仮名読新聞の記事〕(「府下雑報」) (「郵便
報知新聞」明9・8・4) (横浜の仮名読新聞は是
迄隔日に発兌せしが本月中旬より紙幅をひろげ毎日
刷り出すよし…) ↓「神奈川県史」資料編14、神奈
川県、昭51・3

〔窟蟻茶屋の記事〕(「雑報」) (「横浜毎日新
聞」明9・8・17) (本港野毛山の窟蟻茶屋(新
聞縦覧所)は啼く時鳥は自由に聞けど酒店と豆腐屋
へは三丁ツ、もあるといふ如何にも見晴し好き閑静
の所なり…) ↓「神奈川県史」資料編14、神奈川県、
昭51・3

〔仮名垣魯文呑湖酒壺創刊の記事〕(「雑報」
〔東京曙新聞〕明11・3・29) (かなよみ新聞の仮
名垣魯文氏は今度呑湖酒壺と題する新聞を発兌せら
る、由)

珍猫百覧会の前触(「仮名読新聞」) (「かなよ
み」明11・7・20)

〔いろは新聞改題発刊の記事〕(「雑報」) (「東
京日日新聞」明12・12・2) (「安都満新聞のいろは

新聞と改題せらるゝとの由は前号にも記せしが今度
仮名垣魯文翁が後見にていよいよ明後日より発売に
成るとのこと

'80 〔仮名垣魯文いろは新聞社長就任の記事〕

〔雑報〕〔東京曙新聞〕明13・1・5 〔仮名垣魯文
翁が本年より更にいろは新聞社長に推挙されたるに
付て同業各社の記者を新橋の中鉄へ招かれて饗応あ
りたり〕

'81 高島藍泉（細島晴三編）新聞記者奇行伝 初
編 墨々書屋、明14・1・2

いろは新聞仮名垣魯文君（安井乙熊編、松
斎吟光画）『明治英名百人首』錦松堂、明14・4・30

'82 〔仮名垣魯文大阪見物の記事〕〔諸芸新聞〕

第65号、明15・3・12 〔いろは新聞社長仮名垣魯
文翁は先ごろ名古屋から大坂へ見物に赴かれし処
…〕

'84 可笑亭真猿 仮名垣魯文翁いろはに關係せず京の結果
〔芳譚雜誌〕第379号、明17・5・17 ↓ 斎藤緑雨
全集 卷8、筑摩書房、平12・1

今日新聞（雑報）〔東京日日新聞〕明17・

9・27 〔昨廿六日午後六時より浜町花屋敷の常盤
屋にて今日新聞社が開業を祝する為め宴会を張られ
府下の大新聞を唱ふる同業社員を招かれ…〕

今日新聞（府下雑報）〔郵便報知新聞〕明

17・11・13 〔同新聞の持主兼印刷人仮名垣熊太郎

及び編輯人関根友吉の両氏は去月十三日の紙上に無
錢遊興と題し石井弁一郎を譏毀せし科に依り…〕

'85 改進黨（今日新聞）明18・1・20 〔仮
名垣魯文氏は一身上の都合に依り過日改進黨名を脱
し…〕

'90 魯文翁の名納め〔朝野新聞〕明23・3・

27 〔新富町の仏骨庵に閑居する仮名垣魯文翁は明
後廿九日晴雨を論せず江東中村楼にて名納会を催し
…〕

'93 鄭漢生 仮名垣魯文氏（文学現象）〔早稲田文学〕

第34号、明26・2・25

'94 仮名垣魯文翁逝く〔東京朝日新聞〕明27・

11・9

鶴見吐香 仮名垣魯文翁の囊ふくろに身みまか亡りしを悼みて（お
もかげ）〔読売新聞〕明27・11・11 〔まだふみの
いろはにはほとりぬるを見れば涙にわかぬ仮名が
き〕の和歌

仮名垣魯文翁の葬儀〔雑報〕（同右）

相 〔第33号、明27・11・22〕
魯文氏逝く〔彙報〕〔早稲田文学〕第76号、
明27・11・25

'95 野崎左文 仮名垣魯文伝〔早稲田文学〕第81号、85

号、明28・2・10、25、3・10、25、4・10 ↓ 水
谷不倒著『近世 列伝体小説史』下巻、春陽堂、明

- 30・5
 *鷺亭金升 梅亭金鷺翁(雑録)〔「文芸俱樂部」第2、3、6編、明28・2・25、3・25、6・20〕
 故仮名垣魯文氏が三長〔「早稲田文学」第85号、明28・4・10〕
- '96
 小説の挿画(彙報 文学界)〔「早稲田文学」第19号、明29・10・1〕
 魯文が滑稽物(彙報 文学界)〔「早稲田文学」第21号、明29・11・1〕
- '97
 二世紀文(雑報)〔「文芸俱樂部」第3巻第3編、明30・2・10〕
 '99 斎藤緑雨 日用帳(巻)〈小説雑俎〉〔「太陽」第5巻第10号、明32・5・5〕 ↓ 『みだれ箱』博文館、明36・5。『斎藤緑雨全集』巻4、筑摩書房、平2・12
- '00 吉井庵千曆居士 仮名垣魯文の奇習〔「名士の笑譚」大学堂、明33・4・16〕
 後藤宙外 文士と長寿(時文)〔「新小説」第5年第8号、明33・6・25〕
- '03 阪井久良岐 仮名垣魯文〔「明治畸人伝」内外出版協会、明36・5・28〕
- '04
 仮名垣魯文(栗島山之助編)『日本人名辞典』板倉屋書房、明37・6・20 昭52・12に歴史図書社から復刻版(『日本史人名辞典』)
- '05 *野崎左文 昔の新聞談〔「明星」巳年第5、6、10号、明38・5・1、6・1、10・1〕
- '06 塚原洪柿 維新前後の文学(おはなし)〔「文芸俱樂部」第12巻第5号、明39・4・1〕
 岩城準太郎 前代継承の文学〔「明治文学史」育英舎、明39・12・16〕
- '08 大塚 信 下谷区内有名の墳墓〔「風俗画報」第382号、明41・3・25〕
- '09 胡蝶園 猫塚の掃除(雑録)〔「新小説」第14年第12号、明42・12・1〕
- '10 若菜胡蝶園 三十年以前の小新聞社(社会)〔「新小説」第15年第3号、明43・3・1〕
- 【大正期】
 '16 内田魯庵 三十年前(「きのふけふ 明治文化史の半面観」博文館、大5・3・5)
 子規の句講義(補遺第11回続)〔「ホトトギス」第19巻第8号、大5・5・1〕「猫の塚お伝の塚や木下閣」(明治27年作)の句講義を含む
- '17 河竹繁俊 緒言〔「江島と生島」解題〕(早稲田大学編輯部編『近世実録全書』第17巻(明治の実録1)、早稲田大学出版部、大6・8・15)「江島と生島」を収録
- 河竹繁俊 緒言〔「津国屋藤兵衛」解題〕(早稲田大学編輯部編『近世実録全書』第18巻(明治の実録2)、早稲田大学出版部、大6・10・15)「津国屋藤兵衛」を収録

¹⁹河竹繁俊 緒言〔「高橋お伝」「鳥追お松」解題〕（早

稲田大学編輯部編『近世実録全書』第20卷（明治の
実録4）、早稲田大学出版部、大8・2・15）「高橋
お伝」「鳥追お松」を収録

²¹前田林外 明治十年間に於ける文化概観（「日本及日
本人」第80号、春季臨時増刊号（明治大正十年観）、
大10・4・5）

高須梅溪 旧套を離れざる文学（『近代文芸史論』日
本評論社、大10・5・25）「仮名垣魯文の戯作と新
聞小説」を含む。↓「明治文学史論」日本評論社、
昭9・10・20

²²藤岡作太郎 明治の世（『国文学史講話』東京開成館、
大11・1・15）↓「藤岡作太郎著作集」第1冊、岩
波書店、昭21・11

²⁴高須芳次郎 混沌期の文学とその新傾向（『日本現代
文学十二講』新潮社、大13・1・28）第二講「啓蒙
運動と黎明期の文学」のうち
馬場孤蝶 藤椅子に倚りて（『孤蝶隨筆』新作社、大
13・10・10）

²⁵坪内逍遙 新旧過渡期の回想（『早稲田文学』第29号、
大14・3・1）（『明治文学号 混沌期の研究』↓十川
信介編『明治文学回想集』上、岩波文庫、平10・12

野崎左文 明治初期の新聞小説（同右）↓十川信介編
『明治文学回想集』上、岩波文庫、平10・12

山口 剛 仮名垣魯文と成島柳北―明治初年の戯作戯

文―（同右）↓「紙魚文学」三省堂、昭7・6。

「山口剛著作集」第6巻、中央公論社、昭47・8
長谷川誠也 新聞雑誌と海外文学の翻訳（同右）
淡島寒月 明治十年前後（同右）↓十川信介編『明治
文学回想集』上、岩波文庫、平10・12。『梵雲庵雜
話』岩波文庫、平11・8。平凡社（『東洋文庫658』、
平11・8）

宮島新三郎 明治混沌期の政治文学（同右）
三田村鳶魚 明治年代合巻の外観（同右）↓十川信介
編『明治文学回想集』上、岩波文庫、平10・12
本間久雄 似而非悪魔主義―所謂毒婦物の考察―（同
右）

宮島新三郎 旧文学の残栄（『明治文学十二講』新詩
壇社、大14・5・19）「魯文の作とその意義」を含
む

野崎左文 今日新聞の三ヶ年間（『早稲田文学』第22
号、大14・6・1）（『明治文学号 胎生期の研究』
半井桃水 新聞小説の發育期（同右）

河竹繁俊 江戸末期の頹廢的傾向と黙阿弥／明治の初
年／円熟期（『河竹黙阿弥』〈黙阿弥全集 首巻〉春
陽堂、大14・7・3）

高木 文 明治全小説戯曲大観（『明治全小説戯曲大
観』〈高木文隨筆その1〉聚芳閣、大14・11・15）
「明治全小説戯曲大年表」を付す

²⁶野崎左文 西洋道中膝栗毛の末に一言す（仮名垣魯文

- 著『西洋道中膝栗毛』（明治初期小説随筆選4）聚芳閣、大15・3・20）
- 尾崎久弥 戯作者の逼塞と活動（『新小説』第31年第4号、大15・4・1）（明治大正文芸運動大観）
- 市島春城 明治初期の新聞紙回顧（『早稲田文学』第243号、大15・4・1）（明治文学研究第5号 混沌期、胎生期、興隆期補遺）↓十川信介編『明治文学回想集』上、岩波文庫、平10・12
- 野崎左文 明治年間に於ける著述家の面影（同右）
- 木村 毅 ヒロイン列伝／明治文学混沌期補遺―『早稲田文学』の特別号を読んで―（『文芸東西』南北―明治・大正文学諸断面の新研究―）新潮社、大15・4・22）
- 本間久雄 『高橋阿伝夜叉譚』の興味（はしがき）（野崎左文・本間久雄校訂『高橋阿伝夜叉譚』（明治文学名著全集第5巻）東京堂、大15・5・15）
- 野崎左文 『高橋阿伝夜叉譚』と魯文翁／仮名垣魯文著書目録（同右）
- 本間久雄 明治初期毒婦物の考察（同右）
- 日夏耿之介 明治煽情文芸概論（『説苑』（中央公論）第41年第7号、大15・7・1）
- 河野省三 明治初年に於ける思想界の側面―大教宣布運動の一考察―（『国学院雑誌』第32巻第7号、大15・7・5）
- 加藤武雄 軟派文学と政治小説（『明治大正文学の輪郭』（『文芸入門叢書第2編』）新潮社、大15・9・13）
- 坪内逍遙『仮名垣魯文について』を付す
- 山崎金男 合巻式純明治の草双紙（『東京新誌』第1巻第3号、大15・10・15）
- 【昭和期（戦前）】
- *生田長江 明治文学概説（『日本文学講座』第3）5巻、新潮社、昭2・1・20、2・20、3・20）↓
- 『明治時代』上編（日本文学講座第11巻）、新潮社、昭6・5
- 尾崎久弥 「滑稽道中膝栗毛」に就て（『江戸軟派研究』第3編第9冊、昭2・3・1）
- 藤田徳太郎 明治初期文学断片（『国語と国文学』第4巻第3号、昭2・3・1）
- 質々迂人（石川巖） 明治初期の戯作から「ザンギリ」浮世床の事（『明治文化研究』第3年第3冊、昭2・3・1）
- 柳田 泉 明治文学雑感五則（『愛書趣味』第2巻第3号、通巻第9号、昭2・3・25）
- 野崎左文 明治初期の新聞小説／明治初期に於ける戯作者／仮名垣魯文翁の自伝（『私の見た明治文壇』春陽堂、昭2・5・15）
- 高須芳次郎 仮名垣魯文（『改造』第9巻第6号、昭2・6・1）
- 本間久雄 はしがき（本間久雄校訂『明治文学名著全集』第10編、東京堂、昭2・6・15）「鳥追阿松海

上新話」を収録

*石川 巖 写真主義以前の小説（『日本文学講座』第

9、12巻、新潮社、昭2・8・10、9・10、10・10、11・10）↓『明治時代』上編（日本文学講座第11巻）、

新潮社、昭6・5

千葉亀雄 新聞小説研究（『日本文学講座』第10巻、

新潮社、昭2・9・10）↓『明治時代』中編（日本

文学講座第12巻）、新潮社、昭6・9

三品蘭溪 極盛期と維新後（『早稲田文学』第261号、

昭2・10・1）（草双紙の研究）

江見水蔭 水は低きに（『自己中心 明治文壇史』博文

館、昭2・10・28）

郷里から帝都へ／忽ちの都会化／鳥流しの二年／孤

立して不良児

石川 巖編 『明治初期 戯作年表』（書物往来叢書別

輯）（従吾所好社、昭2・11・10）

²⁸石井研堂 魯文其他の雑考（『明治文化研究』第4巻

第1号、昭3・1・1）

石井研堂 「牛店雑談 安愚楽鍋」解題（吉野作造編

『明治文化全集』第19巻（風俗篇）、日本評論社、昭

3・2・5）「牛店雑談 安愚楽鍋」『西洋料理通』

を収録

高橋邦太郎 「西洋料理通」解題（同右）

馬場孤蝶 思い出づること一つ二つ―菊亭のこと、仮

名垣のこと―（『明治文化研究』第4巻第4号、昭

3・4・1）

高須芳次郎 仮名垣魯文―明治初期の文学者（4）―

（『文章俱樂部』第13巻第5号、昭3・5・1）

*松井史亭 発生期に於ける新聞小説（『明治文化研究』

第4巻第5、6、10号、昭3・5・1、6・1、

10・1）

石川 巖 「三則教の捷徑」解題（吉野作造編『明治

文化全集』第11巻（宗教篇）、日本評論社、昭3・

9・15）「三則教の捷徑」を収録

斎藤昌三 明治初期文学年表（吉野作造編『明治文化

全集』第12巻（文学芸術篇）、日本評論社、昭3・

10・15）

石田元季 河竹黙阿弥と仮名垣魯文（『草双紙のいろ

いろ』南宋書院、昭3・11・10）

金井嘉佐太郎 明治初期の文学（更級郡戊組職員会編

『明治大正文学史』更級郡戊組職員会、昭3・11・

10）

橘 文七 仮名垣魯文の伝統小説―西洋藤栗毛・胡瓜

遣（『明治大正文学史』啓文社書店、昭3・12・15）

目次のタイトルによる。↓『近代日本文学の鳥瞰』

大誠堂、昭10・6。『日本文学変遷史』大伸堂書店、

昭10・11

²⁹柳田 泉 混沌期の明治文学（『明治文化研究講座第一

講』（『明治文化研究』第5巻第1号、昭4・1・1）

鈴木古鶴 幕末以後の戯作もの、作者（一）（『グロテ

スク」第2巻第7号、昭4・7・1)「仮名垣魯文」を含む

岡野他家夫 雑誌ものがたり続(「明治文化」第5巻

第12号、昭4・12・1)「魯文珍報」を含む。↓

『書物から見た明治の文芸』東洋堂、昭17・12

³⁰吉沢義則 魯文関係書目稿(「書物礼讃」第11号、昭

5・7・15)

³¹—— 諸家年譜 仮名垣魯文(「明治開化期文学

集」(現代日本文学全集1)改造社、昭6・1・20)

「牛店雑談 安愚楽鍋」を収録

木村 毅 卷末解題(同右)

土岐善磨 新時代と戯作者(「明治大正史」第5巻

〈芸術篇〉、朝日新聞社、昭6・2・20)

大西林五郎 小新聞(「娯楽新聞」の創刊(「日本新聞

販売史」新聞通信社、昭6・5・10)

片岡良一 日本文学史概説(五)明治時代(「岩波講座日

本文学」(一般項目三)岩波書店、昭6・10・15)

³²豊田 実 日本に於けるシエイクスピア紹介の歴史

(明治十五年迄)(「文学研究」第1輯、昭7・3・

10)

鈴木敏也 日本小説の展開下(「岩波講座日本文学」

(特殊項目二)岩波書店、昭7・3・15)

野崎左文・石川 巖 仮名垣魯文(藤村作編『日本文

学大辞典』第1巻、新潮社、昭7・6・20)昭25・

5に増補改訂版(第2巻)

安倍能成 明治思想界の潮流—文芸評論を中心として

—(「岩波講座日本文学」(関係項目一)岩波書店、

昭7・10・15)

藤村 作・久松潜一 伝統的文学諸相(藤村作・久松

潜一『明治文学序説』山海堂出版部、昭7・10・23)

藤田徳太郎 仮名垣魯文研究(福田久道編『明治作家

研究』上(明治文学講座第5巻)、木犀社書院、昭

7・12・20) ↓福田久道編『明治文学研究』成功館

書店、昭8・7

³³蛭原八郎 明治初年の小説家と新聞雑誌(「書物展望」

第3巻第1号、昭8・1・1)

藤田徳太郎 仮名垣魯文研究補遺(福田久道編『明治

文学の特殊的研究』下(明治文学講座第4巻)、木

犀社書院、昭8・3・6)

藤田徳太郎 仮名垣魯文研究補遺—前回配本中の「仮

名垣魯文研究」に追補して—(福田久道編『明治文

学研究』成功館書店、昭8・7・25)

柳田 泉 いはゆる続き物の嚆矢「金之助」について

(「文学」第1巻第4号、昭8・7・1) ↓『随筆明

治文学』春秋社、昭13・5

青山善太郎 仮名垣魯文の俳諧(「句と評論」第2巻

第10号、昭8・10・1)

³⁴柳田 泉 高島藍泉とその作品(「明治文化研究」第

1輯、昭9・2・11) ↓『続随筆明治文学』春秋社、

昭13・8

木村 毅 明治開化期の文学—新文学以前の諸相—
『明治文学を語る』楽浪書院、昭9・5・12)「戯作者の殿將 仮名垣魯文」を含む

宮島新三郎 旧文学の伝統(『遺稿 明治文学概論』東京出版社、昭9・5・30)「仮名垣魯文の作とその意義」を含む

三田村鳶魚 明治初期の合巻について(『国語と国文学』第11巻第8号、昭9・8・1)〈夏季特輯 明治大正文学を語る〉間民夫記

—— 仮名垣魯文(木村毅監修『日本人名辞典』〈小辞典全集第9巻〉非凡閣、昭9・10・22)

³⁵永井一孝 旧文学の残影(『明治文学史』敬文堂書店、昭10・1・25)

柳田 泉 戯作中の外来種二三について(『明治初期の翻訳文学』(『明治文学叢刊第1巻』)春秋社、昭10・2・20) ↓『明治文学研究』第5巻、春秋社、昭36・9

塩田良平 戯作者論(『近代日本文学論』万上閣、昭10・5・5)

柳田 泉 政治小説発展の背景／政治小説以前の政治的文学(『政治小説研究』上巻(『明治文学叢刊第2巻』)、春秋社、昭10・5・17) ↓『明治文学研究』第8巻、春秋社、昭42・8

蛭原八郎 明治文学前史考／明治以降新聞小説略史／明治初年の戯作者小説家と新聞雑誌(『明治文学雑

記』学而書院、昭10・7・20)

法橋理知 仮名垣魯文の西洋藤栗毛について(『明治文学攷』第1巻第5号、昭10・7・21)

本間久雄 開化物／開化期小説(『明治文学史』上巻(『日本文学全史巻10』)、東京堂、昭10・7・29) 昭23・10に新訂版。平6・6に復刻版

³⁶—— 仮名垣魯文(菊池寛監修『日本英雄伝』第3巻、非凡閣、昭11・4・17)

山本笑月 魯文時代の引札類 新世相を語る風俗資料／仮名垣門下の人々 変った風格の人物揃ひ(『明治世相百話』第一書房、昭11・4・20) 昭58・7に中公文庫版

—— 片々録(『英語青年』第75巻第4号、昭11・5・15)「沙翁記念祭」紹介の中で「葉武列士倭錦絵」を取り上げる

³⁷—— 仮名垣魯文の書いた艶種新聞記事(『明治大正史談』第1輯、昭12・2・25)「横浜毎日新聞」明8・2・1の再録

次田 潤 明治時代(『日本文学通史』明治書院、昭12・3・17)

—— 仮名垣魯文(『大日本人名辞書』第1巻、講談社、昭12・3・20) 増訂版十一版。昭49・8に復刻版

村上浜吉 魯文(著者別)(『明治文学書目』村上文庫、昭12・4・20) 昭63・5に国書刊行会、昭51・7に

飯塚書房から復刻版

篠田敏造 天然水、心中嘶魯文翁（『銀座百話』岡倉書房、昭12・5・20）昭49・4に角川書店（角川選書65）版

暉峻康隆 仮名垣魯文（『新撰大人名辞典』第2巻、平凡社、昭12・7・23）昭54・7に復刻版（『日本人名大事典』）

篠田敏造 戯作家記者の内職（『明治文化』第10巻第9号、昭12・9・11）
 '38 芹沢 寛 仮名垣魯文（『文学の道』ルミノ出版社、昭13・1・16）

塩田良平 明治初期 戯作（『近代小説』河出書房、昭13・7・20）中篇「小説概説」のうち
 塩田良平 明治文学概説（『概観明治文学』人文書院、昭13・12・10）

'39* 柳田 泉 戯作文学の話（一）（四）——明治文学史案（三）（六）——「解釈と鑑賞」第4巻第1（3、5号、昭14・1・1、2・1、3・1、5・1）↓「明治初期の文学思想」上・下、春秋社、昭40・3・7

藤田徳太郎 仮名垣魯文（『日本小説史論』至文堂、昭14・11・2）

'41 吉田精一 戯作文学（『明治大正文学史』修文館、昭16・3・5）第1篇「啓蒙思潮」のうち。昭35・7に角川文庫版。↓「吉田精一著作集」第20巻、桜楓

社、昭55・7

柳田 泉 戯作文学（『初期明治文学の輪郭』（ラジオ新書45）日本放送出版協会、昭16・4・25）
 片岡良一 明治文学史概説（『近代日本文学の展望』中央公論社、昭16・5・20）↓「片岡良一著作集」第3巻、中央公論社、昭54・6

山元都星雄 伝統文芸（『日本文学史——社会的に見たる——』第4巻、白楊社、昭16・7・7）

'42 杉山平助 開化期文壇の諸相（『文芸五十年史』鱒書院、昭17・11・20）
 '43 沢本孟虎 戯画戯文 河鍋曉斎と仮名垣魯文（『近世人物評伝 山河人あり』維新書房、昭18・3・10）

塩田良平 初期の戯作者（『明治の作家と作品』人文書院、昭18・7・30）
 平田禿木 明治文学の思ひ出（『禿木遺響 文学界前後』四方木書店、昭18・9・18）昭58・4に日本図書センター（『明治大正文学回想集成14』）から復刻版

'44 西田長寿 明治十一年—十四年の新聞界（尾佐竹猛編『明治文化の新研究』亜細亜書房、昭19・3・20）

【昭和期（戦後）】
 '47 篠田敏造 初期新聞社の編輯局／小新聞記者の花会／新聞の珍説漫語／新聞の珍聞奇聞（『明治新聞綺談』須藤書店、昭22・10）

'50 山本豊子 仮名垣魯文（『文学遺跡巡礼 日本文学篇 第79回』『学苑』第12巻第1号、昭25・1）

*柳田 泉 戯作文学のはなし（『新日本文学』第5卷第5、6号、昭25・7、8）↓「明治初期の文学思想」上・下、春秋社、昭40・3、7

塩田良平 近代初期（塩田良平・福田清人著『近代小説』〈日本文学教養講座10〉至文堂、昭25・11）

⁵¹法橋理知 仮名垣魯文の作品（『立命館文学』第77号、昭26・2）

柳田 泉 明治初期の文学思潮―戯作の諸流派と啓蒙

文学―（片岡良一編『近代日本文学の思潮と流派』（上）〈近代日本文学講座3〉、河出書房、昭26・12）

⁵³塩田良平 明治初期の文学（『明治大正文学研究』第11号、昭28・10）〈特集 思潮中心近代日本文学史〉

伊藤 整 仮名垣魯文が「西洋膝栗毛」を書く／魯文が「安愚楽鍋」を書く／魯文が作家をやめて役人になる／江戸戯作者の生活／魯文の経歴／魯文と弟子たち／「魯文珍報」／魯文と「仮名読新聞」／魯文と緑雨（『日本文壇史』1〈開化期の人々〉、講談社、昭28・11）目次のタイトルによる。平6・12に講談社文芸文庫版

岡崎 正 戯作の残影と政治小説（岡崎義恵編『明治文化史』7〈文芸編〉、洋々社、昭28・12）「明治の小説」のうち

原田隆吉 随筆・試論、その他散文（同右）「明治の評論」のうち

⁵⁴興津 要 仮名垣魯文年譜（『早稲田大学教育学部学

術研究―人文・社会・自然―」第2号、昭29・1）

伊藤 整 魯文が隠退する（『日本文壇史』2〈新文学の創始者たち〉、講談社、昭29・3）目次のタイトルによる。平7・2に講談社文芸文庫版

小林智賀平 仮名垣魯文―人と作品（西洋道中膝栗毛を中心として）（『聖心女子大学論叢』第4集、昭29・3）

柳田 泉 仮名垣魯文（久松潜一・吉田精一編『近代日本文学辞典』東京堂出版、昭29・5）

中村光夫 開化期の戯作・戯文（『日本の近代小説』〈岩波新書〉岩波書店、昭29・9）↓「中村光夫全集」第11巻、筑摩書房、昭48・3

⁵⁵伊藤 整 日本文学の考え方―文士の生活と小説の關係―（『婦人公論』第40巻第1号、昭30・1）

興津 要 「滑稽富士詣」をめぐる（『早稲田大学教育学部学術研究―人文・社会・自然―』第3号、昭30・1）

興津 要 仮名垣魯文―作家的展望―（『国文学』第13号、昭30・2）

伊藤 整 仮名垣魯文死す（『日本文壇史』3〈悩める若人の群れ〉、講談社、昭30・5）目次のタイトルによる。平7・4に講談社文芸文庫版

興津 要 仮名垣魯文の研究―開化期戯作の展開と変遷―（『明治大正文学研究』第16号、昭30・5）〈特集「坪内逍遙研究」〉

- 興津 要 「粹興連」——幕末落語史の一コマ——〔落語研究〕第8号、昭30・9)
- 興津 要 「粹狂連」「興笑連」「和合連」——幕末落語史の一コマ(二)〔落語研究〕第9号、昭30・10)
- ⁵⁶興津 要 明治に生き残った戯作者たち——魯文・有人・金鷲・応賀など——〔解釈と鑑賞〕第21巻第2号、昭31・2) (特集 江戸の文学)
- 山口豊子 仮名垣魯文(昭和女子大学近代文学研究室著)『近代文学研究叢書』第2巻、光葉会、昭31・4・10) 昭44・3に増訂版
- 内川芳美 東京都新聞史 その一幕末・明治前期(日本新聞協会編)『地方別日本新聞史』日本新聞協会、昭31・9)
- 樋口宅三郎 神奈川県新聞史(同右)
- 小田切秀雄 江戸戯作の残存形態(小田切秀雄編)『講座日本近代文学史』1(日本近代文学の成立)、大月書店、昭31・10) 第1章「近代文学成立への過渡期」のうち
- 興津 要 末期戯作の実体——粹狂連・興笑連をめぐる——(「早稲田大学教育学部学術研究——人文・社会・自然——」第5号、昭31・11)
- ⁵⁷小田切秀雄 明治初年の江戸戯作者——仮名垣魯文を中心に——〔日本近世文学の展望〕御茶の水書房、昭32・1) ↓『小田切秀雄全集』第15巻、勉誠出版、平12・11
- 林 美一 景物本と名弘め本のいろいろ(林美一校訂)『江戸広告文学』未刊江戸文学刊行会、昭32・9) 「名聞面赤本」を収録。昭57・5に復刻版
- 柳田 泉・勝本清一郎・大久保利謙・猪野謙二(座談会) 幕末から明治へ——近代文学の前提を求めて——〔文学〕第25巻第11号、昭32・11) ↓「座談会明治文学史」岩波書店、昭36・6
- ⁵⁸興津 要 幕末・開化期戯作の読者層(「文学」第26巻第5号、昭33・5)
- 伊藤 整 明治初期の学問と文学/外来文化と新聞雑誌の誕生(『近代日本の文学史』(ハッパ・ブックス)光文社、昭33・9)
- 小林智賀平 解題 仮名垣魯文——人と作品(『西洋道中膝栗毛』を中心として) / 註釈(仮名垣魯文著、小林智賀平校訂)『西洋道中膝栗毛』下巻(岩波文庫)岩波書店、昭33・10・25)
- 西田長寿 横浜毎日新聞(平凡社編)『世界大百科事典』29、平凡社、昭33・10)
- 小林智賀平 仮名垣魯文と『西洋道中膝栗毛』(「文庫」第85号、昭33・10)
- 興津 要 江戸戯作の末路(『岩波講座日本文学史』第8巻(近世II)、岩波書店、昭33・11)
- 小林智賀平 註釈(仮名垣魯文著、小林智賀平校訂)『西洋道中膝栗毛』下巻(岩波文庫)岩波書店、昭33・12・20)

内川芳美 仮名読新聞(平凡社編)『世界大百科事典』

31、平凡社、昭33・12)

⁵⁹椎橋 好 マスコミの誕生地 横浜毎日新聞のあと

(『新聞資料』第10号、昭34・10)

興津 要 「魯文珍報」・「驥尾団子」——江戸戯作の終

末——(『早稲田大学教育学部学術研究——人文・社

会・自然——』第8号、昭34・12)

⁶⁰興津 要 安愚楽鍋(吉田精一編)『日本文学鑑賞辞典

近代編』東京堂出版、昭35・6)

興津 要 作品解説(『縮冊日本文学全集』第5巻

〈近代前期小説篇〉、日本週報社、昭35・11・10)現

代語訳「西洋道中膝栗毛」「高橋阿伝夜叉譚」を収

録

福田清人 卷末解説(同右)

木戸清平 近代日本文学ノート——明治初期の文学意識

を廻って——(『知られざる文学 近代日本文学ノ一

ト』川又書店、昭35・12)「魯文をめぐって」を含

む

興津 要 「月とスツボンチ」・「絵入人情雑誌」——江

戸戯作の終末——(『早稲田大学教育学部学術研究——

人文・社会・自然——』第9号、昭35・12)

⁶¹興津 要 解題(仮名垣魯文著、興津要校)『滑稽富士

詣』上冊(『古典文庫第162冊』古典文庫、昭36・1・

20)

伊藤正徳 創生から明治期(岡本光三編)『日本新聞百

年史』日本新聞研究連盟、昭36・2)

興津 要 幕末・開化期戯作者の思想と文体(『日本

文学』第10巻第2号、昭36・2)〈特集 思想と文

体その二〉

興津 要 仮名垣魯文(木俣修・川副国基・長谷川泉

編)「人と作品 現代文学講座」第1集(『明治編I』、

明治書院、昭36・10)

小田切秀雄 “文明開化”への江戸戯作者の即応

(『文学史』(『日本現代史大系』) 東洋経済新報社、昭

36・11) 第1章「近代文学の過渡期——明治維新から

啓蒙文学時代へ——」のうち。↓「小田切秀雄全集」

第8巻、勉誠出版、平12・11

興津 要 江戸から明治へ(『文学・語学』第22号、

昭36・12)〈特集 物語小説〉

⁶²岡野他家夫 開化期の流行小説／毒婦物の名作——阿

松・阿衣・阿伝／過渡期の芸文雑誌いろいろ(『近

代日本名著解題』有明書房、昭37・3)

興津 要 書型から見た終末期の戯作(『早稲田大学

教育学部学術研究——人文・社会・自然——』第11号、

昭37・11)

⁶³興津 要 仮名垣魯文(近代文学懇談会編)『近代文学

研究必携』増補版、学燈社、昭38・3)

興津 要 幕末・開化期文学の風土——仮名垣魯文と横

浜——(『国文学』第8巻第4号、昭38・3)〈特集 近

世文学の風土と環境——後期——〉↓「明治開化期文学

の研究」桜楓社、昭43・1

*前田 愛 近世出版機構の解体―明治初期戯作出版の

動向―〔近世文芸〕第9、10号、昭38・6、39・
2) ↓『近代読者の成立』有精堂出版、昭48・11。

『前田愛著作集』第2巻、筑摩書房、平1・5

*渡辺一雄 明治の新聞小説考〔新聞資料〕第55、91
号、昭38・7、41・7) 37回連載。戯作者たちの更

正(55号)／毒婦ものの初め(56号)／魯文の「高
橋お伝」(57号)／世評を呼んだ読み物(58号)／

緑雨が魯文の弟子に(63号)〔ほか〕

中村光夫 戯作〔明治文学史〕(筑摩叢書9)筑摩書

房、昭38・8)第1章「明治初期(明治元年―十八
年)」のうち。↓『中村光夫全集』第11巻、筑摩書

房、昭48・3

興津 要 仮名読新聞〔文学・語学〕第29号、昭

38・9)〔特集 新資料の紹介と論究2〕

興津 要 文明開化と戯作〔国文学〕第8巻第13号、

昭38・10)〔特集 近代作家と思想〕

長谷川泉 安愚楽鍋(仮名垣魯文)〔文明開化〕(私
たちの日本古典文学25)さ・え・ら書房、昭38・12)

興津 要 いろいろは新聞(早稲田大学教育学部学術研

究―人文・社会・自然―)第12号、昭38・12)

⁶⁴高木健夫 胎動期(明治八年―明治十一年)〔新聞小

説史稿〕第1巻、三友社、昭39・4)

興津 要 戯作者の喜びと悲しみ〔解釈と鑑賞〕第

29巻第9号、昭39・8)〔特集 日本文学の生活圏〕

来栖良夫 解説(日本児童文学者協会編「おわらい手

帳」〔少年少女世界ユーモア全集7 日本編〕ポプラ
社、昭39・9)「弥次喜多ロンドンへいく」〔西洋

道中膝栗毛〕の現代語訳を収録。

杉本邦子 「穎才新誌」「魯文珍報」(明治の文学雑誌

(五)〔学苑〕第299号、昭39・11) ↓『明治の文芸雜

誌―その軌跡を辿る―』明治書院、平11・2

⁶⁵柳田 泉 初期文学革新の大勢(『明治初期の文学思

想』(『明治文学研究第4巻〕春秋社、昭40・3)「新
聞と戯作文学」を含む

木村 毅 最初に英訳された明治文学―仮名垣魯文再

検討―(『明治大正文学夜話 第3回)〔解釈と鑑賞〕
第30巻3号、昭40・3)

上巻、東京堂書店、昭40・4)

仮名垣魯文(森銃三編『明治人物逸話辞典』

越智治雄 成島柳北における反近代〔国文学〕第10

巻5号、昭40・4)〔特集 明治文学の問題点〕

本邦夕刊の歴史〔新聞資料〕第77号、昭

40・5)

浅井 清 戯作の復活―仮名垣魯文の場合―〔立教

大学日本文学〕第14号、昭40・6)

興津 要 魯文珍報〔解釈と鑑賞〕第30巻第13号、

昭40・10臨時増刊号〔近代文学雑誌事典〕↓長

谷川泉編『近代文学雑誌事典』至文堂、昭41・1

西田長寿 いろは新聞／かなよみ（新聞・雑誌解説）

（遠藤元男・下村富士男編『国史文献解説』続）朝倉書店、昭40・11）

⁶⁶興津 要 解題／仮名垣魯文（略歴）（興津要編『明治開化期文学全集（一）』（明治文学全集1）筑摩書房、昭41・1・10）「万国航海西洋道中膝栗毛」『牛店雜談安愚楽鍋』「河童相伝胡瓜遣」『大洋新話蛸入道魚説教』を収録

秋庭太郎 魯文のことゝも（同右月報）

中村幸彦 後期戯作界（『戯作論』角川書店、昭41・9）↓『中村幸彦著述集』第8巻、中央公論社、昭

57・7

田中 伸 牛店雜談 安愚楽鍋（仮名垣魯文）（近代文学と風俗描写）（『国文学』第11巻第12号、昭41・10

臨時増刊（特集 近代文学の環境百科事典）

本間久雄 『ハムレット』移入考―『葉武列士倭錦絵』のこと―（『実践文学』第29号、昭41・12）

興津 要 開化期戯作における諷刺（『文学』第34巻第12号、昭41・12）

⁶⁷小田切進 江戸戯作（小田切進・平山城児『指向と研究 日本文学史』三省堂、昭42・5）第V章「近代文学の確立と発展―近代」のうち

服部幸雄 解題（国立劇場芸能調査室編『当写殿下茶屋駅』〔天下茶屋』上演資料集別冊）国立劇場芸能調査室、昭42・6・1）「当写殿下茶屋駅」の影印

と翻刻

興津 要 解題／参考文献／明治開化期文学年表（興津要編『明治開化期文学全集（二）』（明治文学全集2）筑摩書房、昭42・6・30）「高橋阿伝夜刃譚」を収録

興津 要 明治開化期文学年表作成余話（同右月報）永尾章曹 「牛店雜談 安愚楽鍋」の文体について（『国文学攷』第43号、昭42・6）

⁶⁸武藤禎夫 解題（武藤禎夫編『江戸小咄本十一集』近世風俗研究会、昭43・1）「粹興奇人伝」の解題

興津 要 仮名垣魯文（伊藤整ほか編『新潮日本文学小辞典』新潮社、昭43・1）

前田 愛 文明開化（伊藤整・下村富士男編『日本文学の歴史』第9巻（近代の目ざめ）、角川書店、昭43・1）↓『幕末・維新期の文学』法政大学出版社、昭47・10

興津 要 近代ジャーナリズムの誕生（同右）

仮名垣魯文（伊藤整編『文士の筆跡』1（作家篇I）、一玄社、昭43・5）

伊藤 整 明治大正文学の潮流（同右）松井如流 作家の筆跡I（同右）

仮名垣魯文ゆかりの地・萩園（湘南紀行文学会同人編『湘南の文学めぐり』郷土の文学散歩II）富士出版、昭43・10）「東屋と南湖院」のうち
⁶⁹稲垣達郎 作品解説（『明治初期文学集』現代日本文

学全集1) 講談社、昭44・12・20) 「安愚楽鍋」を収録

成瀬正勝 明治初期文学入門 (同右)

興津 要 仮名垣魯文年譜/明治初期文学参考文献 仮名垣魯文 (同右)

70 高橋新吉 禅と文学 (『禅と文学』宝文館出版、昭45・7) 「仮名垣魯文」を含む。↓「高橋新吉全集」

III、青土社、昭57・5

興津 要 解説/注釈 (『明治開化期文学集』(日本近代文学大系1)、角川書店、昭45・12・10) 「牛店雑談 安愚楽鍋」を収録

早野寿郎 「アングラ」の「あぐらなべ」(同右月報)

71 稲垣達郎 近代文学の夜明け前—書誌的に—(名著複刻全集編集委員会編『特選名著複刻全集 近代文学館—作品解題—』日本近代文学館、昭46・5) ↓

「稲垣達郎学芸文集1」筑摩書房、昭57・1

中村浩理 日本最後の仇討「冬楓月夕栄」解説 (『肥筑豊州志』福岡県文化財資料集刊行会、昭46・6・5) 「冬楓月夕栄」の解説と翻刻

平岡敏夫 近代文学の胎生 (『国文学』第16巻第16号、昭46・12臨時増刊『近代日本文学の歴史』) ↓「近代日本文学の歴史」学燈社、昭47・3

72 鈴木英夫 『安愚楽鍋』にみられる漢語とその表記について (『共立女子大学短期大学部紀要』第15号、昭47・3)

和田繁二郎 仮名垣魯文試論—転換期文学の一パターン— (『立命館文学』第322号、昭47・4)

興津 要 梅亭金鷲/高島藍泉 (『異端のアルチザンたち 応賀 円遊 金鷲 小せん 藍泉』(『読売選書20』読売新聞社、昭47・5)

前田 愛 啓蒙期の思想と文学 (紅野敏郎ほか編『明治の文学 近代文学史1』(『有斐閣選書』有斐閣、昭47・6) 第1章「明治初期の文学」のうち

—— 日本文壇ドキュメント裏面史 新聞・追悼号にみる「作家の死」(『新評別冊』(『作家の死』第5巻第3号、昭47・8) 「仮名垣魯文翁逝く」(『東京朝日新聞』明27・11・9) を収録

志村士郎 仮名垣魯文印類 (『東京文学百景』有峰書店、昭47・9)

河竹登志夫 文明開化の中のハムレット像—第一期、単純紹介と翻案化への歩み(明治四年〜一二、三年) — (『日本のハムレット』南窓社、昭47・10)

横浜に現れた「デンマルクの守」—最初の独白邦訳とその奥にあるもの— / 「葉武列土親王」と「親王ハムレット」—戯作・狂言作者の着手とその中絶— (ほか)

野村 喬 総説 (野村喬・藤木宏幸編『近代文学評論大系』9 (『演劇論』)、角川書店、昭47・11・20)

「新富座評」(『かなよみ』明11・10・20) を収録

藤木宏幸 解題 (同右)

73 鈴木英夫 『安愚楽鍋』と新聞（共立女子大学短期

大学部紀要」第16号、昭48・1）

谷口 巖 魯文と諭吉―『西洋道中膝栗毛』小考―

〔愛知教育大学研究報告〕第22輯第1部、昭48・2）

最後の戯作者 仮名垣魯文（佃実夫編）神奈

川人物風土記』昭和書院、昭48・4）

平岡敏夫 ふたつの「文学」の接近―啓蒙思想と戯作

文学（『日本近代文学の出發』〈紀伊国屋新書〉紀伊

国屋書店、昭48・9）平4・9に塙書房（塙新書66）

から再刊

仮名垣魯文の作品大要―野崎文蔵の業績―

（茅ヶ崎郷土会編『郷土茅ヶ崎』下巻、茅ヶ崎市教

育委員会、昭48・12）

浅井 清 仮名垣魯文と近代（『国文学』第18巻第15

号、昭48・12）〈特集 戯作―笑いと反俗〉

74 飛田良文 明治初期東京語の否定表現体系―『安愚楽

鍋』における「ない」「ねえ」「ぬ」「ん」の用法―

（『ことばの研究』第5集〈国立国語研究所論集5〉、

昭49・3）

仮名垣魯文（横浜市中区役所市民課編『資

料 中区文学散歩―関内を中心として―」（横浜市巾

区役所市民課、昭49・11）

高木健夫 新聞小説の原型プロトタイプ―続きもの（『新聞小説

史 明治篇』国書刊行会、昭49・12）第1章「明

治初期」のうち

75 前田 愛 明治維新と近代文学（紅野敏郎ほか編『現

代文学講座』1（明治の文学I）、〈解釈と鑑賞別冊〉

至文堂、昭50・2）

浅井 清 戯作と風刺―魯文と柳北をめぐる―（同

右）

前田 愛 開化期の犯罪実話―「高橋阿伝夜刃譚」の

場合（『国文学』第20巻第4号、昭50・3臨時増刊

号（ミステリーとSFの世界））↓『幻景の明治』

〈朝日選書21〉朝日新聞社、昭53・11。『前田愛著作

集』第4巻、筑摩書房、平1・12

浅井 清 仮名垣魯文論（『国語と国文学』第52巻第

4号、昭50・4）↓日本文学研究資料刊行会編『明

治の文学』（日本文学研究資料叢書）有精堂出版、

昭56・12

吉村竹両 序（清野博士の事／「阿伝陰部考」欠字の

弁）（吉村竹両編『阿伝陰部考 附・高橋阿伝夜刃

譚』萩書房、昭50・7・8）清野健次「阿伝陰部考」、

「高橋阿伝夜刃譚」（復刻版）を収録

尾崎秀樹 魯文の仕事ぶり（『文壇うちそと―大衆文

学逸史―筑摩書房、昭50・8）

越智治雄 二つの極（『近代文学の誕生』〈講談社現代

新書395〉講談社、昭50・9）

浅井 清 仮名垣魯文「万国航海西洋道中膝栗毛」の

弥次郎兵衛・北八（『国文学』第20巻第15号、昭

50・11臨時増刊（日本の旅びと101人）

- 小田切秀雄 近代文学前史―移行・啓蒙期・政治小説
 ―『現代文学史』上巻、集英社、昭50・12〕↓
 『小田切秀雄全集』第巻、勉誠出版、平12・11
 ドナルド・キーン 仮名垣魯文(『日本文学散歩』(朝
 日選書51)朝日新聞社、昭50・12)篠田一士訳
 76越智治雄 近代文学の黎明(越智治雄ほか著『日本の
 近代文学 明治・大正期』(NHK市民大学叢書36)
 日本放送出版協会、昭51・2)「開化期の魯文」を
 含む
 仮名垣魯文(三省堂編修所編『コンサイス
 日本人名事典』三省堂、昭51・3)
 亀井秀雄 毒婦と驕女(本田錦一郎編著『変革期の文
 学』北海道大学図書刊行会、昭51・3)
 野口武彦 毒婦物の系譜(『国文学』第21巻第10号、
 昭51・8)〈特集 江戸から東京へ〉
 松田 修 西洋道中藤栗毛の位相(同右)
 亀井秀雄 二人のふとで者―多助とお伝―(同右)
 増田太次郎 明治の戯作者たちと引札／戯作者たちと
 引札の文章(『引札 絵びら 錦絵広告 江戸から明
 治・大正へ』(ブレイン別冊)誠文堂新光社、昭
 51・12)
 77延広真治 仮名垣魯文(三好行雄編『日本近代文学研
 究必携』学燈社、昭52・1)
 坂上博一 仮名垣魯文の活躍(『近代日本文学の歴史』
 桜楓社、昭52・9)
 仮名垣魯文(朝倉治彦・井門寛編『文学碑
 辞典』東京堂出版、昭52・9)
 新田恭子 『安愚楽鍋』に見る待遇表現の要因(『東
 京女子大学日本文学』第48号、昭52・9)
 浅井 清・越智治雄・平岡敏夫・前田 愛 開化期の
 思想と文学(越智治雄司会『近代文学の成立期』
 シンポジウム日本文学12)学生社、昭52・11)
 興津 要 仮名垣魯文(日本近代文学館編『日本近代
 文学大事典』第1巻、講談社、昭52・11)
 浅井 清 『仮名読新聞』／『東京絵入新聞』(日本
 近代文学館編『日本近代文学大事典』第5巻、講談
 社、昭52・11)
 興津 要 『魯文珍報』(同右)
 78浅井 清 近世から近代へ(三好行雄・竹盛天雄編
 『近代文学』1(黎明期の近代文学)、(有斐閣双書
 有斐閣、昭53・3)
 興津 要 文明開化と戯作(同右)
 中島国彦 戯作の可能性(同右)
 古田東朔 『安愚楽鍋』における登場人物の音訛の度
 合(『東京大学人文科学紀要』第67輯、昭53・3)
 前田 愛 仮名垣魯文(桑原武夫ほか編『世界伝記大
 事典 日本・朝鮮・中国編』2、ほるぷ出版、昭
 53・7)
 亀井秀雄 戯作のエネルギ―毒婦誕生の場合(『国
 文学』第23巻第16号、昭53・12)〈特集 日本的小説

を求めて)

⁷⁹鈴木重三 江戸後期の絵入版本 (『絵本と浮世絵 江戸出版文化の考察』美術出版社、昭54・3)

椎野正之 「牛店雑談 安愚楽鍋」における外来語 (『文化紀要』第13号、昭54・3)

小池正胤 明治十年代戯作の一系譜―『浮世快意談』

から瘦々亭骨皮道人の社会戯作まで (『国語と国文学』第56巻第5号、昭54・5) (明治文学の諸問題)

猪野謙二 明治戯作 (『日本現代文学史(一)』(『日本現代文学全集別巻』)講談社、昭54・6) ↓『明治文学史』

上、講談社、昭60・6

興津 要 仮名垣魯文(明治戯作者論) (『解釈と鑑賞』第44巻第9号、昭54・8) (第一特集 戯作三百年)

山口武美 『明治前期 戯作本書目』(『日本書誌学大系』10) (青裳堂書店、昭55・2)

⁸⁰浅井 清 戯作(浅井清ほか編『研究資料現代日本文学』第1巻(小説・戯曲I)、明治書院、昭55・3)

前田 愛 仮名垣魯文「高橋阿伝夜刃譚」のお伝(『国文学』第25巻4号、昭55・3 臨時増刊(名作の中の

おんな101人))

鶴田節雄 絵草紙・成田屋・成田詣(『解題』(鶴田節

雄校注『仮名垣魯文の成田道中記(成田道中膝栗毛)』(『新版絵草紙シリーズ』千秋社、昭55・8・5)

⁸¹ 仮名垣魯文 (三好行雄・浅井清編『近代日

本文学小辞典』有斐閣、昭56・2)

仮名垣魯文 (読売新聞社横浜支局編『神奈川の百人』丸井図書出版、昭56・9)

増田太次郎 引札を書いた文人・戯作者 (『引札絵ビラ風俗史』(『青蛙選書59』)青蛙房、昭56・9)

仮名垣魯文 (日本歴史学会編『明治維新人名辞典』吉川弘文館、昭56・9)

⁸²鈴木英夫 仮名垣魯文の語彙 (佐藤喜代治編『近代の語彙』(講座日本語の語彙 第6巻) 明治書院、昭57・2)

仮名垣魯文 (市川の文学調査研究会編『市川の文学』市川市教育委員会、昭57・3)

森川知史 明治開化期の待遇表現―『安愚楽鍋』にみえる敬語― (『国文学論叢』第27輯、昭57・3)

三好 徹 特ダネの時代(近世ジャーナリスト列伝 第21回) (『中央公論』第97年第4号、昭57・4)

日刊新聞の道をきりひらいた「横浜毎日」(大畑哲編『神奈川県』(明治・大正・昭和の郷土史

14) 昌平社、昭57・5)

塩田良平 仮名垣魯文『牛店雑談 安愚楽鍋』(日本近代文学館編『日本近代文学名著事典』日本近代文学館、昭57・5)

尾形国治 仮名垣魯文(谷山茂ほか編『日本文学史辞典』京都書房、昭57・9)

興津 要 仮名垣魯文 (国史大辞典編集委員会編『国

183

史大辞典』第3巻、吉川弘文館、昭57・12)

—— 仮名垣魯文(神奈川県民部歴史編集室編『神奈川県史』別編1(人物)、神奈川県、昭58・3)

鎌田佳乃 『安愚楽鍋』 試論—作品に見るパーソナリ

テイ—(弘前学院大学国語国文学会誌) 第9号、昭58・3)

浅井 清 仮名垣魯文(近代作家研究事典刊行会編『近代作家研究事典』桜楓社、昭58・6)

—— 仮名垣魯文とその碑 萩園三島神社境内(茅ヶ崎郷土会編『ふるさとと歴史散歩』茅ヶ崎郷土会、昭58・6)

小沢 彰 仮名垣魯文(神奈川県百科事典刊行会編『神奈川県百科事典』大和書房、昭58・7)

—— 仮名垣魯文(人物小伝)(第二アートセンタ

ー編『国際交流の演出者』(日本のリーダー) 第5巻) テイビーエス・ブリタニカ、昭58・9)

興津 要 仮名垣魯文(日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』第1巻、岩波書店、昭58・10)

工藤 茂 戯作文学の中の明治—『西洋道中膝栗毛』と『安愚楽鍋』への一視点—(『国学院雑誌』第84巻第11号、昭58・11)

前田 愛 魯文と窟蟻蟻庵—野毛山の新開縦覧所—(『神奈川と文学』(神奈川近代文学館) 第2号、昭58・12)

*興津 要 仮名垣魯文(『文学』第51巻第12号、第52巻第7号、第53巻第9号、昭58・12、59・7、60・9)

その開化主義/その時勢順応主義/新聞人として生きた後半生

84前田 愛 19世紀から20世紀へ(神奈川文学振興会編『近代文学一〇〇年と神奈川展』(神奈川近代文学館開館記念) 神奈川文学振興会、昭59・10)

浅井 清 仮名垣魯文(平凡社編『大百科事典』第3巻、平凡社、昭59・11)

—— 仮名垣魯文(中野三敏編『近代蔵書印譜』初編)(日本書誌学大系41(1)) 青裳堂書店、昭59・12)

稲垣達郎 作品解題(名著複刻全集編集委員会編『秀選名著複刻全集 近代文学館—作品解題—』日本近代文学館、昭59・12)

「牛店雑談 安愚楽鍋」の解題

85平岩米吉 浮世絵の猫(『猫の歴史と奇話』動物文学会、昭60・2) 「三世広重と清親」を含む。三世広重は「魯文珍報」に「百猫画譜」を描く。平4・10

に築地書館から新装版

山本武利 横浜毎日新聞(平凡社編『大百科事典』第15巻、平凡社、昭60・6)

林原純生 「牛店雑談 安愚楽鍋」のなかの文明開化

(『青須我波良』第29号、昭60・6)

岡本 勲 明治初期戯作者の文章(『国語と国文学』

第62卷第9号、昭60・9)

飛鳥井雅道 「毒婦」と「孝子」(「文学」第53卷第11号、昭60・11)〈特集 江戸から明治への文学〉

'86 山本芳明 啓蒙期の思想と文学(前田愛編『日本文学新史 近代』(「国文学解釈と鑑賞別冊」)至文堂、昭61・3)

森川知史 「安愚楽鍋」に見える「たべる」の意味(「国文学論叢」第31輯、昭61・3)

山辺奈奈子 「安愚楽鍋」における指定表現(「米沢国語国文」第13号、昭61・9)

小池正胤 仮名垣魯文(長谷川泉編『現代文学研究情報と資料』(「国文学解釈と鑑賞別冊」)至文堂、昭61・11)

'87 明治の戯作(三好行雄ほか編『日本文学史辞典 近現代編』(「角川小辞典32」)角川書店、昭62・2)

須永朝彦 通覧草双紙余映—江戸から明治へ(「幻想文学」第18号、昭62・5)〈特集 魔界とユートピア 日本幻想文学誌1 明治篇〉

前田 愛 闇なる明治を求めて(「インタビュー」(同右))

北小路健 「西洋道中膝栗毛」仮名垣魯文著／「安愚楽鍋」仮名垣魯文著(石本隆一ほか編『日本文芸鑑賞事典』第1巻、ぎょうせい、昭62・8)

'88 浅井 清 仮名垣魯文(平凡社編『世界大百科事典』

第5巻、平凡社、昭63・3)

山本武利 横浜毎日新聞(平凡社編『世界大百科事典』第29巻、平凡社、昭63・3)

本田康雄 草双紙合巻から新聞小説へ—開化期文化の底流—(「国文学研究資料館紀要」第14号、昭63・3)

谷沢永一 『仮名反古』(「探照燈11」)〈「解釈と鑑賞」第53巻第4号、昭63・4〉↓「遊星群 時代を語る好書録」明治篇、和泉書院、平16・12

山口静一 河鍋曉斎とその挿絵(三)—魯文の戯作本、啓蒙書など(「日本古書通信」第53巻第5号、昭63・5)

倉田喜弘 解説(倉田喜弘校注『芸能』(「日本近代思想大系18」)岩波書店、昭63・7・22)「粹興奇人伝」『歴史の本読で驚かす鯨の開化者』(「歌舞伎新報」第36号、明12・9・25)を収録

山口静一・及川 茂 文明開化万華鏡—曉斎と魯文—(山口静一・及川茂編『河鍋曉斎戯画集』(「岩波文庫」)岩波書店、昭63・8・16)

津田 潔 文学作品の中の「部落」—「鳥追阿松海上新話」から「藪かうじ」まで—(「特別分科会(部落問題と文芸 報告Ⅰ)」(「部落問題研究」95、昭63・8)

本田康雄 版木から活字へ—稿本の終焉—(「国語と国文学」第65巻第12号、昭63・12)

【平成期】

- ⁸⁹松木 喬 魯文とその周辺（『よこはま 文学と港の風景』〈かなしんブックス27〉）神奈川新聞社、平1・1）
- 羽鳥徹哉 「近代日本文学と笑い」試論（ハワード・S・ヒベット、長谷川強編『江戸の笑い』〈国文学研究資料館共同研究報告「日本文学の特質」〉明治書院、平1・3）「開化期の戯作、戯文」を含む
- ⁹⁰張 小綱 近世日中文学における毒婦像の比較研究——高橋阿伝と潘金蓮を中心に——（『東方学』第79輯、平2・1）
- 服部幸雄 解題（『国立劇場上演資料集』298、平2・3）「当写殿下茶屋駅」の解題
- 巖谷大四 最後の戯作者 仮名垣魯文（『物語 明治文壇外史』新人物往来社、平2・10）
- 佐川 章 仮名垣魯文（『作家のペンネーム事典』創拓社、平2・11）
- *ダラム・ヴァレリー 明治初期の毒婦物における悪女造型のレトリック（『東京経済大学人文自然科学論集』No.86、88、平2・12、3・7）
- 興津 要 『通俗窮理話』（『早稲田大学教育学部学術研究—国語・国文学編—』第39号、平2・12）「通俗窮理話」の翻刻と解説
- ⁹¹—— 仮名垣魯文（新潮社辞典編集部編『新潮日本人辞典』新潮社、平3・3）
- 塩原富男 萩園三島神社の記念碑（『茅ヶ崎の記念碑』〈資料館叢書10〉）茅ヶ崎文化資料館、平3・3）「仮名垣魯文の碑」を含む
- 本田康雄 新聞小説の発生—東京絵入新聞を読んで—（『国文学研究資料館紀要』第17号、平3・3）
- 興津 要 仮名垣魯文と横浜（『有鄰』第283号、平3・6・10）↓有隣堂出版部編『よこはまながわ心の旅路』有隣堂、平4・11
- 福田和彦 解題（福田和彦編『枕旅木曾街道六十九次』前編、〈浮世絵グラフィック4〉ベストセラーズ、平3・10）
- 山本 清 明治期における第五活用形・ば（四）（『帝京大学文学部紀要（国語国文学）』第23号、平3・10）
- 浅野三平 明治初頭の一現象—『安愚楽鍋』の背景—（『国文目白』第31号、平3・11）
- 西田谷洋 仮名垣魯文の政治と文学—一八七二—七七—（『イミタチオ』第18号、平3・12）
- ⁹²小西甚一 戯作から明治文芸へ（『日本文芸史』V、講談社、平4・2）「近代化の試行的出発」のうち
- 草間俊郎 仮名垣魯文の功績（『都市文化史』一）〈かながわ風土記』第185号、平4・12）
- 岡本美保 『安愚楽鍋』におけることばの様相—廢語と片仮名表記語の面から—（『熊本女子大学国文研究』第37号、平4・3）
- 福田和彦 解題（福田和彦著『仮枕浮名の仇波』〈浮

世絵グラフィック7) ベストセラーズ、平4・9・
5) 「仮枕浮名の仇波」を収録

村松友視 仮名垣魯文(作家研究大事典編纂会編)『明治・大正・昭和 作家研究大事典』桜楓社、平4・9)

⁹³浅井 清 仮名垣魯文(下中弘編)『日本史大事典』2、平凡社、平5・2)

興津 要 両国八景 荏土久里戯(早稲田大学教育学部学術研究—国語・国文学編—)第41号、平5・2) 「両国八景 荏土久里戯」の翻刻と解説

*古田東朔 『安愚楽鍋』の語句管見(鶴見大学国語教育研究)第26、27、29、31、34号、平5・3、7、6・6、7・7、8・1、7、9・1)

石川松太郎 第三期「地理科往来」について(石川松太郎監修『往来物大系』第54卷(地理科往来)、大空社、平5・9・25)「横浜往来」を収録

—— 仮名垣魯文(堤精二ほか編)『国書人名辞典』第1卷、岩波書店、平5・11)

⁹⁴赤瀬雅子 日本近代文学にみる船旅—魯文、荷風、前田河、岸田—(桃山学院大学人間科学)第6号、平6・1) ↓ 『永井荷風とフランス文化—放浪の風土記—』荒竹出版、平10・11

興津 要 翻刻「恋相場花王夜嵐」(早稲田大学教育学部学術研究—国語・国文学編—)第42号、平6・2) 「恋相場花王夜嵐」の翻刻と解題

石井光太郎 魯文と幕末のヨコハマ/幕末の俳書・旧

派の俳書/往来物と八景物(横浜市中央図書館開館記念誌編集委員会編)『横浜の本と文化』(横浜市中央図書館開館記念誌)横浜市中央図書館、平6・3) 「魯文の窟蟻蟻亭句合」 「魯文の横浜往来」を含む

佐藤 孝 近代的新聞の誕生(同右)「新聞縦覧所の設立」 「魯文と『仮名読新聞』」を含む

斎藤秀夫 新聞縦覧所(同右) 塚越和夫、高橋お伝とは何か(『文学年誌』第11号、平6・4) ↓ 『統続 明治文学石摺考』葦真文社、平13・8

山田俊治 明治の戯作(有精堂編集部編)『時代別日本文学史事典 近代編』有精堂出版、平6・6)

太平主人 書誌解題(太平主人編)『江戸明治流行細見記』(太平文庫27) 太平書屋、平6・9) 慶応元年板「歳盛記」・明治元年板「歳盛記」の影印と解題 中野三敏 仮名垣魯文(朝日新聞社編)『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社、平6・11)

⁹⁵興津 要 翻刻「金花胡蝶幻」(早稲田大学教育学部学術研究—国語・国文学編—)第43号、平7・2)

—— 政論新聞時代の幕開け(大西林五郎原著、宍戸啓一編)『日本新聞発達史(明治・大正編)』樽書房、平7・3) 原著『日本新聞販売史』佐藤 悟 異本『粹興奇人伝』—解題と影印—(実

- 踐女子大学文芸資料研究所年報 第14号、平7・3）
 平田由美 ワシントン豪傑物語—蘭学はいかにして婦
 女童蒙むけ海外知識になるか—〔人文学報〕第75
 号、平7・3）
 徳岡孝夫 悪の淵へ真つ逆さま 仮名垣魯文「高橋阿
 伝夜叉譚」のお伝（明治の女性）〔清流〕第1巻第
 11号、平7・3）
 佐々木亨 明治の合巻—所謂明治式合巻と東京式合巻
 なる名称をめぐって—〔徳島文理大学文学論叢〕
 第12号、平7・3）
 三田英彬 明治戯作の老将逝く 仮名垣魯文〔明
 治・大正・昭和の作家の死を読む 人生の終局に臨
 むそれぞれの生き方〕日新報道、平7・5）
 松田 望 仮名垣魯文『万国航海 西洋道中膝栗毛 初
 編』の語彙（研究ノート）〔東京女子大学言語文化
 研究〕第4号、平7・8）
 ドナルド・キーン 文明開化（『日本文学の歴史』10
 〈近代・現代篇1〉、中央公論社、平7・11） 徳岡孝
 夫訳
 96 John Mertz Close Encounters of the First Kind:
 Jippensha Ikkū, Kanagaki Rūbun, and the Literary
 Construction of National Identity (『アジア文化研
 究』22、平8・3)
 David W. Rycroft Charles Wirgman and Kanagaki
 Rūbun—manga and marubon—〔甲南大学紀要〕
- 文学編96、平8・3）
 三宅守常 解題『三則教の捷徑』仮名垣魯文（『三条
 教則』関係資料（三））（『明治聖徳記念学会紀要』
 復刊第17号、平8・4）『三則教の捷徑』を収録
 川戸道昭 シェイクスピア集 解説（川戸道昭・榊原
 貴教編『シェイクスピア集』I（『明治翻訳文学全
 集 新聞雑誌編1』、大空社、平8・6・28）『葉武
 列士』を収録
 横浜学を考える会写真で初公開 幻の3号
 見つかる 仮名垣魯文ら発行の絵新聞（『神奈川新
 聞』平8・6・16）（『新聞記事』
 文らの風刺漫画雑誌（『朝日新聞』〔横浜版〕平8・
 7・4朝刊）（『新聞記事』
 榊原貴教 西洋文学受容の社会的背景（川戸道昭・榊
 原貴教編『シェイクスピア集』II（『明治翻訳文学全
 集 新聞雑誌編2』、大空社、平8・10・26）『葉武
 列士倭錦絵』を収録
 福田和彦 文庫版あとがき（福田和彦著『夢の手枕』
 〈エロチカ文庫5〉ベストセラーズ、平8・11・5）
 『仮枕浮名の仇波』を収録
 榊原 混二 明治初期小説の展開—明治戯作の内実—
 （『広島大学文学部紀要』第56号、平8・12）↓『明
 治初期文学の展開』（榊原 混二著作集2）和泉書院、
 平13・2

'97佐藤 悟 『十六画漢悪縁起』影印と解題（実践女子大学文芸資料研究所年報）第16号、平9・3）

ひろたまさき 文明開化期のジェンダー——高橋お伝

物語をめぐる（『江戸の思想』第6号、平9・5）

山室 清 仮名垣魯文（横浜文芸懇話会編『ヨコハマ文学散歩 神奈川元袖ヶ浦の丘に文学を訪ねて』第44回、横浜文芸懇話会、平9・10）

吉田伸之 「珍禽獸」の見世物と異類観（村井章介・佐藤信・吉田伸之編『境界の日本史』山川出版社、平9・11）

二村文人 仮名垣魯文（西沢正史・徳田武編『日本古典文学研究史大事典』勉誠社、平9・11）

浅井 清 仮名垣魯文『万国航海 西洋道中膝栗毛』——文明開化への空想旅行——（『解釈と鑑賞』第62巻第12号、平9・12）（特集 続・日本人の見た異国・異国人——明治・大正期）

'98西野嘉章 和装本『欧洲小説 哲烈禍福譚』（仮名垣魯文・宮島春松訳）（『装訂考26 和装本』（UP）第304号、平10・2）

小池章太郎 仮名垣魯文著 会席招猫（解題・翻刻）（『跡見学園女子大学国文学科報』第26号、平10・3）

塚越和夫 『牛店雑談 安愚楽鍋』の世界（『武蔵野日本文学』第7号、平10・3） ↓ 『続続 明治文学石摺考』葦真文社、平13・8

門野 泉 『葉武列士倭錦絵』再考（『清泉女子大学

人文科学研究所紀要』第19号、平10・4）

上田 博 明治戯作（上田博・瀧本和成編『明治文学史』見洋書房、平10・11）第1章「新文学の機運」のうち

'99佐々木亨 西南戦争と草双紙——『鳥追阿松海上新話』の出現をめぐる——（『近世文芸』第69号、平11・1）

ダラム・ヴァレリー 翻刻 仮名垣魯文作『薄緑娘白波』 翻刻と注釈（その一）（『東京経済大学人文自然科学論集』No.107、平11・1）

鳥居フミ子 「伊賀の仇討」「廓曾我仮家細軒」書誌（鳥居フミ子編『ソウル大学校所蔵 近世芸文集』第4巻、勉誠社、平11・2・25）「伊賀の仇討」「廓曾我仮家細軒」を収録

浅野敏彦 『西洋道中膝栗毛——初編——の漢字——』言語とコンピュータⅡ』の授業から——（『大阪成蹊女子短期大学研究紀要』第36号、平11・3）

佐々木亨 『鹿兒島実記一夕話』と『鳥追阿松海上新話』——大倉孫兵衛の戦略——（『国文学研究』第127集、平11・3）

*加藤康子 合巻『花菱狐草紙』について（『叢』第21、22号、平11・6、12・6）

秋山勇造 仮名垣魯文の『葉武列士』と『葉武列士倭錦絵』（『神奈川大学評論』第33号、平11・7） ↓ 『明治翻訳異聞』新読書社、平12・5

『明治翻訳異聞』新読書社、平12・5

—— 仮名垣魯文（石上英一ほか編）『岩波 日本史辞典』岩波書店、平11・10）

甘露純規 仮名垣魯文「盗作」事件考（『日本文学』第48巻第11号、平11・11）（特集・文学の経済学）

佐々木亨 『鳥追阿松海上新話』の成立―連載と草双紙のはざま―（『江戸文学』第21号、平11・12）（特集 明治十年代の江戸）

00 杉井和子 英雄を笑う「团团珍聞」の総生寛―ニュー・スと史実と演劇と―（ハワード・ヒベツト、日本文学と笑い研究会編『笑いと創造』第2集、勉誠出版、平12・3）

若水 俊 『安政見聞誌』は仮名垣魯文の作か（『茨女国文』第12号、平12・3）

佐々木亨 『鳥追阿松海上新話』の読者の成立―新聞の宣伝効果―（『国文学研究』第130集、平12・3）

* 増村照子 『西洋道中膝栗毛』における江戸語の考察―語連接上の音韻現象（撥音化）の実態について―（『道都大学短期大学部紀要』第36、37号、平12・3、9）

—— 仮名垣魯文（日本史広辞典編集委員会編）『日本人物辞典』山川出版社、平12・5）

山室 清 日刊紙の先駆者たち（『横浜から新聞を創った人々』神奈川新聞社、平12・10）

仮名垣魯文の横浜毎日入社／魯文記者の多能多才／「茶説」で憂さをはらす魯文／魯文、仮名読新聞を

出す／野毛山に新聞読ませる茶店

奈良崎英穂（瀨）Ⅱ「遺伝」説の誕生―進化論の移入と明治文学―（『日本近代文学』第63集、平12・10）

—— 仮名垣魯文（湯本豪一編）『図説 明治人物事典 文化人・学者・実業家』日外アソシエーツ、平12・11）

01 仮名垣魯文（渡辺守邦・後藤憲二編）『新編蔵書印譜』（日本書誌学大系79）青裳堂書店、平13・1）

—— 仮名垣魯文（上野、谷中、人名録）（『東京人』第16巻第3号、平13・2増刊（上野の森を楽しむ本））

斉藤 愛 異人種への視線―近代日本人種観の誕生まで―（『国際日本文学研究会会誌』第24回、国文学研究資料館、平13・3）『西洋道中膝栗毛』論を含む

増村照子 『万国航海西洋道中膝栗毛』に表れる江戸語（ことだ・へものだ）の音訛表現について―『浮世風呂』との比較における考察―（『道都大学短期大学部紀要』第38号、平13・3）

水野 洋 仮名垣魯文「安愚楽鍋」開化の断面（作家と作品）（上田博、瀧本和成編『明治文芸館』1（新文学の機運 福沢諭吉と近代文学）、嵯峨野書院、平13・5）「安愚楽鍋（抄）」を収録

興津 要 仮名垣魯文（臼井勝美ほか編）『日本近現代人名辞典』吉川弘文館、平13・7）

塚越和夫 高橋お伝の本（『続統 明治文学石摺考』葦真文社、平13・8）

紀田順一郎 仮名垣魯文（『ペンネームの由来事典』東京堂出版、平13・9）

⁰²佐藤 悟 文芸資料研究所蔵 仮名垣魯文『興画合真影人物誌跋文戯章』解題・影印—『くまなき影』と

影の文化について—（『実践女子大学文芸資料研究所年報』第21号、平14・3）

中島穂高 粹狂連の地口本（『中央大学国文』第45号、平14・3）

横田順彌 仮名垣魯文の世界観（『近代日本奇想小説史 第4回』（『SFマガジン』第43巻第4号、平14・4）

羽賀祥二 膨張する皇国・開化する皇国（小森陽一ほか編『近代世界の形成』（『岩波講座近代日本の文化史1』岩波書店、平14・5）『仮名垣魯文』西洋道

中膝栗毛』を含む）

藤野 豊 解説（藤野豊編『近現代日本ハンセン病問題資料集成』（『戦前編』第1巻、不二書房、平14・6・10）『起廃病院医事雑誌』第1、2号を収録）

ねじめ正一 仮名垣魯文 ちゃんまげの人（解説）（坪内祐三・ねじめ正一編『仮名垣魯文』（明治の文学 第1巻）筑摩書房、平14・6・25）『万国航海 西洋道

中膝栗毛』牛店雑談 安愚楽鍋』河童相伝 胡瓜遣』を収録）

仮名垣魯文年譜（同右）

齊藤 愛 「文明開化」の光源を求める旅—仮名垣魯文『西洋道中膝栗毛』論—（『都大論究』第39号、平14・6）

上田由美 『仮名読新聞』と守屋正造（『新聞万華鏡9』（『開港のひろば』第77号、平14・7）

と蔵書印—国立国会図書館蔵本から—』雄松堂出版、平14・10）

坂井 健 「牛鍋」はどんな鍋だったか—『安愚楽鍋』を中心—（『京都語文』第9号、平14・10）

小町文雄 鍋料理は、もてなしと宴の原点 清少納言から仮名垣魯文まで（『おれんちでメシ食わないか 男のもてなし、その技と心』光文社、平14・11）

⁰³佐藤至子 幕末期合巻における「江戸」（『近世芸文』第77号、平15・1）

木本 至 戯作者の野心 仮名垣魯文校閲、京文舎文京著述、梅堂國政画『名廣澤邊萍』（『稀書巡礼13』『出版ニュース』（平15・3月上旬号、平15・3・1）

シユテファン・ケーン 『安政見聞誌』再考—安政大地震にかんする情報の再商品化をめぐって—（『国語国文』第72巻第5号、平15・5）

小林 実 『仮名読新聞』にみる物語の創出（『立教

- 大学日本文学」第90号、平15・7）
 山室 清 新聞にかかわった文人（横浜文芸懇話会編
 『ヨコハマ文学散歩 港ヨコハマと作家たち』第50
 回、横浜文芸懇話会、平15・10）
 北原泰邦 〈毒婦〉の身体性―仮名垣魯文『高橋阿伝
 夜刃譚』の物語造形―（『国学院雑誌』第104巻10号、
 平15・10）
 炭焼三太郎 江戸を沸かせた仮名垣魯文の大ベストセ
 ラー『滑稽三太郎ばなし』（炭焼三太郎・中央線沿
 線楽会編『炭焼三太郎物語 中央線沿線・お江戸名
 物』日本地域社会研究所、平15・11）
 '04天野勝重 お伝を取り巻く世界―『高橋阿伝夜刃譚』
 試論―（『国文学研究ノート』第38号、平16・1）
 池山 晃 六二連『俳優評判記』の位置―新しい劇評
 媒体群のなかで―（『日本文学研究』第43号、平
 16・2）
 小峰慎也 万国航海 西洋道中膝栗毛／仮名垣魯文
 （浅井清・佐藤勝編『日本現代小説大事典』明治書
 院、平16・7）
 '05福田育弘 構造としての飲食 魯文『安愚楽鍋』から
 鷗外の「牛鍋」へ（『学術研究―外国語・外国文学
 篇―』第53号、平17・2）
 佐々木亨 「仮名読新聞」における明治九年の連載に
 対する再検討（『国文学研究資料館紀要』文学研究
 篇、第31号、平17・2）
 牧村健一郎 近代新聞の誕生（『新聞記者 夏目漱石』
 〈平凡社新書27〉平凡社、平17・6）「仮名垣魯文の
 『活躍』を含む
 佐藤武義 『万国航海 西洋道中膝栗毛』の二著者の
 用語（近代語研究会編『日本近代語研究』4、ひつ
 じ書房、平17・6）
 鶴橋俊宏 仮名垣魯文の戯作小説における推量表現
 （同右）
 谷川恵一 「河童相伝 胡瓜遣」解題（仮名垣魯文著
 『河童相伝 胡瓜遣』（リプリント）日本近代文学18』
 国文学研究資料館、平17・9・25）
 高木 元 鈍亭時代の魯文―切附本をめぐって―
 （『千葉大学社会科学文化科学研究』第11号、平17・9）
 秋山勇造 仮名垣魯文と新聞（『新しい日本のかたち
 明治開明の諸相』御茶の水書房、平17・10）
 李 艶麗 仮名垣魯文と林紓の比較文学史―近代初期
 の文人意識における伝統と近代の相克―（『思想史
 研究』第5号、平17・10）
 '06延広真治 仮名垣魯文（岡本勝・雲英末雄編『新版近
 世文学研究事典』おうふう、平18・2）
 佐々木亨 『高橋阿伝夜刃譚』初編に於ける諸問題―
 書誌とジャンルを中心に―（『国文学研究』第148集、
 平18・3）〈特集 伝承・流布・メディア〉
 Sponheim Olaf Japanische Morphosyntax kommentierte
 Übersetzung der Szene 'Seiyoo-zuki = no kiki-tori'

Halbwissen eines Liebhabers des Westens' aus dem ersten Band der Kurzgeschichtensammlung

'Agranabe' von Kanagaki Robun (研究ノート) (千葉商大紀要) 第43巻第4号、平18・3)

須田千里 「高橋阿伝夜刃譚」解題 (仮名垣魯文著

『高橋阿伝夜刃譚 (初編)』(リプリント) 近代文学41) 国文学研究資料館、平18・4・25)

須田千里 「高橋阿伝夜刃譚」解題 (仮名垣魯文著

『高橋阿伝夜刃譚 (五編)』(リプリント) 近代文学42) 国文学研究資料館、平18・4・25)

(初編)と同人

山本和明 「恋相場花王夜嵐」解題 (仮名垣魯文著

『恋相場花王夜嵐』(リプリント) 近代文学43) 国文学研究資料館、平18・4・25)

神林尚子 「花袋狐草紙」解題 (仮名垣魯文著『花袋

狐草紙』(リプリント) 近代文学46) 国文学研究資料館、平18・4・25)

仮名垣魯文 (『ビジュアル人物辞典』(日本

の1000人) No.22 (吉田茂)、平18・7・4)

窪田千代 幕末から明治の人氣戯作者 仮名垣魯文百

覧会 (『毎日新聞』(東京版) 平18・10・25朝刊)

白石明彦 軽妙に開化期をルポ 戯作者 仮名垣魯文

百覧会 (『単眼 複眼』(朝日新聞) 平18・10・30夕刊)

江森敬治 曾祖父・魯文の再評価願う (人・模・様

『毎日新聞』平18・11・22夕刊)

付記

これまで本誌に、北村透谷・山路愛山・田岡嶺雲と明治の評論家の書誌を発表してきた。昨年六月、秋に当館で仮名垣魯文の展示とシンポジウムが開催されることが決まり、急速、魯文の参考文献目録作成を思いついた。三ヶ月間でどれだけ調査できるか試してみたいと思った。また、魯文は横浜とも関係が深く、横浜在住という「地の利」を生かしてみようと思った。九月末に原稿を提出し、その後校正の段階で若干の文献を追加した。極めて短期間で作成したため、遺漏した文献も多いと思われるが、御寛恕いただきたい。

主な先行参考文献目録には次のものがある。

・山口豊子 資料年表 (昭和女子大学近代文学研究室

著『近代文学研究叢書』第2巻、光葉会、昭31・4)

『仮名垣魯文』のうち。昭44・3に増訂版。↓平塚

良宣著『仮名垣魯文』平塚良宣、昭54・5

・興津 要 参考文献 (興津要編『明治開化期文学全集(二)』(明治文学全集2) 筑摩書房、昭42・6)

・興津 要 参考文献 (『仮名垣魯文』文明開化の戯

作者』(有隣新書46) 有隣堂、平5・6)

本目録の作成にあたっては、以上のほか『年刊人物文

献目録』(日外アソシエーツ)、『国文学年鑑』(国文学研

究資料館) などの二次資料を参考にした。